

標準委員会 システム安全専門部会 炉心燃料分科会
第 36 回 (S1SC36) 議事録

日 時：2025 年 11 月 17 日(月) 15:00～17:00

場 所：オンライン会議にて開催

出席者（敬称略）：

委員：天谷主査 (JAEA)、牟田副主査 (阪大)、成川幹事 (東大)、北島委員 (電中研)、
大川委員 (代理：阿部 (東大))、本谷委員 (東芝 ESS)、福田委員 (MHI)、
安田委員 (日立 GE)、草ヶ谷委員 (GNF-J)、笹川委員 (NFI)、鶴田委員 (東電 HD)、
田伏委員 (関電)、計 12 名
(欠席委員 5 名：大石委員 (阪大)、河村委員 (電中研)、黒崎委員 (京大)、鈴木委員 (JANSI)
勝部委員 (原電))
常時参加者：根本、山下 (JAEA)、大脇 (東芝 ESS)、金子 (NRA)、浦野 (中電)、三輪 (NEL)、
中森 (電中研)、坂本 (NFI)、久保 (NFI)、佐藤 (MHI)、計 10 名

オブザーバ：村上 (MHI)、計 1 名

全 22 名出席（オブザーバを除く）

配付資料：

S1SC36-1 第 35 回分科会議事録（案）
S1SC36-2 人事について
S1SC36-3 ATF 技術レポート 検討関連
S1SC36-4 倫理教育で寄せられたご意見
S1SC35 参考-1 炉心燃料分科会 名簿

1. 出席者確認

天谷主査によって出席者が確認された。委員出席者数は 12 名であり、分科会の定足数（委員数 17 名の 2/3 以上）を満たすことが確認された。

2. 人事について (S1SC36-2)

MHI 福田委員から、S1SC35-2 により、今回の人事案件はない旨、説明があった。

3. 第35回分科会議事録(案)の確認 (S1SC36-1)

MHI 福田委員より、資料 S1SC36-2 の通り前回（第35回）の議事録(案)が報告された。当該議事録は、分科会委員には事前送付されており、すでに確認されており、分科会終了時点での（案）をとって正式議事録として確定した。

4. ATF技術レポートの作成に関する状況について (ATF検討WG) (S1SC36-3)

MHI 村上オブザーバ（ワーキング委員）より、資料 S1SC36-3 (3-1～3-3) により、最新の状況として ATF に関する技術レポートの進捗状況として、これまでの作成方針に基づいた技術レポートの具体案が示された。これについて、以下の意見や質疑がなされた。

- Cr コーティングはもっとも実用化が近いと思われるが、それだけでなく、ATF として、FeCrAl、SiC 等の将来の実用化を視野に入れた、記載を心掛けてほしい。
- 一方で、本レポートは新設計燃料の開発に対する安全確保の考え方を中心に記載していくものなので、具体的な安全性の確認を、Cr コーティングと同じメッシュで、他の ATF についても展開していくのは、難しいところもあり、将来に含みを持たせた記載ぶりにしておいた方がよい。
- 各 ATF への安全確保の考え方への具体的な適用は、本文に記載するよりは、本文では導入部のみ記載して、そこから引用する添付資料として、いつでも拡充できるような構成としておくのがよい。

上記も踏まえ、年内目途にさらにレポートの作りこみを進め、今年度内のシステム安全専門部会（2月）への最終報告を目標としていきたい旨、説明があった。

5. 2025年度倫理教育に寄せられたご意見 (S1SC36-4)

MHI 福田委員より、資料 S1SC36-4 により、今年度の倫理教育について分科会委員全員が受講済となったこと、及びそこで寄せられた意見・感想として、以下の内容におおむね整理されることが説明された。

- 個人は、どんなに経験豊富や優れた能力をもってしても必ずや気の付かないことや無意識に組織の文化やこれまでの経験にしばられた、考えの偏りがあることを認識すべき。
- いわゆるこの認知バイアスに対しては、より多くの人とのコミュニケーションによって修正をはかっていくことが大切であり、昨年の倫理教育で問題提起されたサイレントバイスタンダーとなる前に、アクティブバイスタンダーとして積極的に意見を声にして発信をしていくことがらためて重要

上記を踏まえ、意見交換を行ったところ、以下に大別されるご意見があり、分科会関係者で認識を共有するとともに、福田委員より、システム安全専門部会へ報告することで了承された。

- ・個人ではなく、組織として認知バイアスの修正が大切だが、個人が属する会社等の組織にバイアスがある可能性も認識して、学協会の場等で異なる組織やステークホルダーとの交流・意見交換が重要。
- ・個人の認知バイアスを前提で広く意見に耳を傾けることの重要性は否定すべくもないが、一方、個人個人が原子力安全を追求してきた専門家としての誇りと柱を意識した自身の意見を見失ってはいけない。

7. その他

7.1 LUA 標準の公衆審査の結果について

電中研北島委員より、公衆審査の結果について、特に意見もなく終了した旨報告された。

7.2 2026 年度 5 カ年計画等の改定主旨について

MHI 福田委員より、以下の通り、3 つの標準又は技術レポートを中心に改訂・発刊をおこなっていく旨を説明し、これを反映した 5 カ年計画として 12 月末目標にシステム安全専門部会へ報告していくことで、異論なく了承された。

- ・ LUA 標準：2025 年度公衆審査終了、発刊へ。

2026 年度 講習会開催。

- ・ ATF 技術レポート：

2025 年度 システム安全専門部会への最終報告。

2026 年度：発刊へ。

- ・ 炉心燃料の安全設計技術レポート更新：

2026 年度 2 回目の改定作業開始

2027 年度 改訂版発刊へ。

以 上